

会 議 録

会議の名称	令和6年度第2回行田市男女共同参画推進審議会	
開催日時	令和7年1月28日(火) 開会：午前10時00分・閉会：午前11時30分	
開催場所	行田市男女共同参画推進センター 2階 学習室	
出席者(委員)氏名	布施由起委員(会長)、高橋晃代委員、島田早苗委員、佐野和美委員、森田美智子委員、野中正人委員、高島茂夫委員、堀越稔委員(副会長)、加藤修一委員、川崎晴代委員、室田大樹委員(名簿順、敬称略)	
欠席者(委員)氏名	中澤俊裕委員、飯島伸介委員	
事務局	人権・男女共同参画推進課長 野辺博彦、 男女共同参画推進センター所長 堀口修司、主幹 秋山純代	
会議内容	(1) 第4次ぎょうだ男女共同参画プランの改定骨子案について (2) その他	
会議資料	①次第(当日配布) ②行田市男女共同参画推進審議会委員名簿(当日配布) ③男女共同参画に関するWEBアンケート調査報告書(当日配布) ④ぎょうだ男女共同参画プラン改定案(骨子案)(事前配布)	
その他必要事項	傍聴者 なし	
会議録の確定	確定年月日	主宰者記名押印
	令和7年3月18日	会長 布施 由起

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事務局	<p>【 開会 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会長あいさつ</li> <li>・ 欠席者の報告</li> <li>・ 配布資料の確認</li> <li>・ 議長の選出（布施会長）</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本日の会議は過半数が出席しているので会議は成立している。また、非公開とする内容はなく、傍聴希望者もない。</li> </ul>
総員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第に基づき議事を進行する。</li> </ul> <p>議事（１）第４次ぎょうだ男女共同参画プランの改定骨子案について、事務局に説明を求める。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議事（１）第４次ぎょうだ男女共同参画プランの改定骨子案について説明。</li> </ul> <p>①男女共同参画に関するWEBアンケート調査報告について</p>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケート調査報告について、意見や質問等あるか。</li> </ul>
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他のWEB調査と比較した際、回答数２９２件は、どの程度のものなのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新たな基本構想策定に当たってのWEBアンケート調査では、５５７件の回答があった。２９２件というのは極端に少ないものではない。年齢層の幅も確保できているため、調査として成立するものと捉えている。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若年層の回答も集まり、喜ばしく思う。川崎委員、いかがか。</li> </ul>
川崎委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域活動の場において、だいたい４人に１人が男女平等と感じているのは、想像よりも高かった。他にも想像よりも良い結果の項目が見当たるので、平等に対する意識は浸透してきていると思う。そのため、悪い点ばかり取り上げるのではなく、別の視点も取り入れてプランを作るべきだと思う。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平等に感じている割合が増えているのは良い傾向である。</li> </ul>
高島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一概に半々が平等だとは言えないと思う。力仕事は力の強い男性の方が、しつけや教育は女性の方がしなやかに行えると思うので、性差を加味しながら進めていく方が良いのではないか。</li> </ul>

議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• もう一点、高齢者はWEBアンケートに苦勞したのではないか。私もその一人であり、回答を断念した。郵便料等の費用削減のため、アンケートをWEBで行うのは理解できるが、高齢者の回答の取りこぼしがないよう、次回は優しい設定を検討していただきたい。</li> <li>• 70歳以上の回答が他の年齢層より少ないため、留意したい。</li> </ul>
佐野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 初めて男女共同参画推進推進審議会委員に任命された身として、このようなアンケート調査を実施していることに感心した。次いで、平等に対する意識の高さを実感した。ただし、他の会議では委員のほとんどが男性で構成されていることが多いため、社会全体としてはまだ平等とは言えない。この会議を通して、女性活躍が普及していくことを願う。</li> <li>• もう一点、アンケートでDVを受けていると回答した方に対して、アプローチをかけるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 我々としては困っている方にアプローチを試みたい気持ちはある。しかし、プラン改定の基礎とするという目的以外に、調査結果の利用を禁じているため、行動を起こす予定はない。</li> </ul>
佐野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 何かしらの救済方法を用意出来れば良いと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 無記名ということもあり、アンケートの回答からはアプローチできかねるが、引き続き相談窓口の周知を図るとともに、相談者には関係機関の協力を得ながら適正な支援に繋げていきたい。</li> </ul>
加藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• アンケートは国が実施したものと同様の設問であるとのことだが、家庭での役割分担のうち、育児と介護について並列に尋ねられているのがわかりにくかったのではないか。介護が発生する家庭は、介護する立場の者も年配になっており、育児は生じていないと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 国のアンケートでは、育児や介護の立場になくても、そうなった場合にどれが理想かを選んでいただくよう注釈がついていた。我々のアンケートも同様に調査を行った。前回審議会で皆様にこのアンケートを図った際、説明文を増やすべきという指摘をいただいた。しかし、WEBアンケートではページが長くなると、見づらく、アンケートをやらされている感覚が強くなるので、多少のわかりにくさは妥協し、見やすさや回答しやすさを重視した。結果的には、誤解を招く部分もあったのかもしれない。</li> </ul>

堀越委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、18から29歳の反対が非常に多いという結果は予想していなかった。クロス集計を示すことで、より有意義な調査となっている。</li> </ul>
室田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護の分担について、外部サービスを利用しながら互いに半々との回答が約42%で少ないと感じた。性別問わず、個人で介護するのは厳しいと思う。あとは介護される方の、誰に介護されたいのか、施設に入りたいのかという希望も反映されないといけない。男女の問題ではなく、一緒に共通の目的に向けて行動できる社会が理想である。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>制度の問題があるため、一朝一夕のことではないのが現状である。</li> </ul>
高橋委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業生活における女性活躍が進まない要因について、女性自身の出世を女性が望んでいないこともあるように思うとの回答がある。このような意見が出てくるのは、仕事と家庭の両立が大変だから女性自身も出世を望んでないということがあると思う。そのため、社会進出に向け、女性が進出できるような環境整備や意識改革、学校教育、現場の充実が必要だと感じた。あとは、国家公務員は子ども産まれた場合、男性も育休を必ず1ヶ月以上取らなくてはならないのだが、育休取得者が女性の場合であっても、その仕事を誰がやるのかという問題が発生する。そのため、男性の育休取得の推進は当然必要だが、それに伴い育休制度の改善が求められる。令和6年1月より、埼玉労働局が中小企業を対象とした、育児休業や短時間勤務の利用期間中の業務代替を支援するための助成金を新設する等、徐々に環境が整ってきている。</li> </ul>
森田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育に求められるものがすごく多いと感じた。日々の教育の中でも感じてることではあったが、学校教育の中で、男女平等というより誰にでも公平公正を意識して指導、支援していかなくてはいけないと感じた。また、子ども達も様々な課題を抱えているが、助けを求められないということが教育現場で大きな問題となっている。子どもも困ったことがあれば、先生や親、友達等の身近な人に相談できるように進めていかなくてはいけない。DV等の被害にあっても相談しなかった、できなかったということがないよう、学校にいるうちからしっかり助けを求められる気持ちを育てていき、助けを求めても良いんだということを教えていきたい。</li> </ul>
野中委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>このような調査を行うと意識が具体的にわかるため、対策に役に立つ。未だに男性優位だという方が多いが、幼少期から男女同じように活躍する経験をしてこないと、リーダー等に男性が選ばれる傾向になってしまうのだ</li> </ul>

議長	<p>と思う。現在の教育では平等を意識して指導しているので、良くなっていくことに期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全てにおいて男女平等というのは難しいかもしれないが、男女が平等に感じるのが最重要である。</li> <li>・ 最後に、学校で学生にデートDVの説明をすると驚かれることが非常に多い。どのようなものが精神的暴力にあたるのかということも説明していく必要があると感じている。</li> <li>・ 事務局に骨子案の説明を求める。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議事（１）第４次ぎょうだ男女共同参画プランの改定骨子案について説明。</li> </ul> <p>②ぎょうだについて男女共同参画プラン改定案（骨子案）について</p>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本目標３のうち、地域防災力の向上に関連して、若年層のテレビ離れが防災意識の欠如にも影響する恐れがあるのではないかと。テレビでは緊急速報が流れるため地震等の情報を目にできるが、動画やゲームでは気付かないことも多くなる。テレビを見ない層にも、防災意識を醸成させていくのはとても大事だと思う。</li> </ul>
川崎委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本目標１のうち、男女の地位の平等感の上昇のなかで、公的サービス等を周知し、家庭での負担軽減を目指すとする。育児と介護以外の外部サービスというもののイメージがつかみづらい。そのため、具体的なサービスについて発信できればいいと思う。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飲食のデリバリーくらいしか思いつかないので、私としても知りたい。</li> <li>・ ほかに意見はあるか</li> </ul>
室田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行田市の女性管理職の割合が低いということについて、何か要因に思い当たる節はあるか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行田市の制度では、主査試験と課長試験が設けられていた。主査試験を受けられるようになる年齢が２０代後半から３０代前半であり、ちょうど出産や育児と重なる時期になる。そうすると、子育てに直面している状況で、主査試験を受けるという女性はどうしても少なくなってしまう。人事課によると、行田市のように主査試験を設けている例は非常に少ないとのことなので、他市よりも女性管理職割合が低くなっていると考えられる。現在では改善すべきと判断し、今年度から主査試験を変更することとなった</li> </ul>

議長	<p>め、今後の女性管理職増加が期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他に意見はあるか。</li> </ul>
佐野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>「えるぼし認定」は厚生労働省が認定する制度であるが、埼玉県では「多様な働き方実践企業認定制度」というものを実施している。こちらもあるぼしと類似した認定制度であり、認定に向けた支援を利根地域振興センターで行っている。えるぼし認定制度の支援も行えば良いのではないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性活躍については、えるぼし認定数が少なかったため、こちらを推進するのが事務局の考えである。しかし、この取組は市だけで推進できるものではなく、商工会や利根地域振興センター、ハローワーク等、企業と関わりのある様々な団体と協力し、多面的に取り組むべき問題と捉えている。子育てサポート企業の認定制度である、くるみんというものもあるため、可能な限りえるぼしと合わせて周知し、登録企業の増加を目指した活動を進めていきたい。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>他に意見が無ければ、議事（２）その他について、事務局に説明を求める。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>第３回審議会については、３月２１日金曜日午前１０時開催を予定している。開催通知は後日送付するため、よろしく願います。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>以上で全ての議事を終了する。これをもって議長の任を解かせていただく。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>以上をもって閉会とする。</li> </ul> <p>【 閉会 】</p>